京都外国語大学校友会教志会
平成 28 年度　英語教育実践報告研究会　報告

（平成 28 年 11 月 27 日開催）

―研究会テーマー

英語教育　実践力の向上を求めて



教志会　平井幸郎会長

平成 28 年 11 月 27 日（日）、1 号館 7 階小ホールにて上記実践報告会が開かれました。

午前には、3 人の若き京外大卒業生の教師による実践発表に先立ち、本大学教授の梶川裕司先生による講演が行われました。

『教育の今日的課題・・・だからアクティブ・ラーニング』というタイトルで、教員からの知識の伝達・注入を中心とした一方通行の授業から、学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学習（＝アクティブ・ラーニング）という質の高い教育への転換の必要性について熱く語られました。雨の影響かやや少なかった（？）参加者も氏の熱弁に惹きこまれていました。



昼食を兼ねた懇親会後、午後からの実践報告の一番手は、同志社国際中学校・高等学校教員、平畑亜紀先生が**『Extensive　Reading と Quizlet を使った単語指導』**というタイトルで、全校生徒の 3 分の 2 が帰国子女という環境の下、検定教科書や海外で使用されているテキストや小説などを用いた授業。また、対象学年に合わせ M-

Reader（ウェブサイト）を活用した授業や Quizlet Live を活用したグループの対抗学習など斬新な教授法についての報告がなされました。



二人目は、大阪府立岸和田高校教員、小﨑亮介先生が**『生徒が生き生きとする授業―入試対策問題集でアクティブ・ラーニング』**というタイトルで、生徒たちの主体的な授業参加を目的とした様々な教授法を紹介されました。中でも、“BACE―Talk で楽しく Speaking & Writing” ではワークシートが配布され、参加者たちもアクティブ・ラーニングの一例を実践し、盛り上がっていました。

三人目は、三重県立名張高等学校教員、井海崇史先生が**『４技能を伸ばす効果的なアクティビティとその指導』**というタイトルで、日々の授業の実践報告をされました。英語のコミュニケーション手段としての４技能の習得を大学入試対策も兼ねての授業展開は、これから英語教師を目指す現役学生にも大いに参考となる点があると思いました。